

「孫文2014」孫文記念館開館30周年記念行事

孫文月間<特別展示> 11月1日~30日



今年は、孫文記念館30年の歩みをテーマに、孫文記念館開館前後から現在に至るまでの写真やポスターなどを通じて歴史を振り返る事のできる展示でした。

<30周年記念の集い>11月8日（土）

・孫文銅像除幕式 於 移情閣庭園



アメリカハワイ孫中山平和教育基金会理事長 孫 穗芳博士（孫文の令孫）から世界で第137基目という孫文の銅像が贈られ、移情閣庭園に設置されました。10時半からの除幕式には大勢の関係者が参列し、記念撮影が行われた。

・記念式典 中華会館 東亜ホール



午後は会場を中華会館東亜ホールに移し、記念式典が開催されました。孫中山記念会齋藤理事長のご挨拶の後、移情閣友の会からコーラス同好会・二胡同好会の公演がありました。コーラス同好会は華やかなチャイナドレスで登場し、張文乃先生の指揮で「架け橋舞子移情閣」など4曲を披露しました。

続いて二胡同好会も鳴尾 牧子先生の指揮で「喜洋洋」「彩雲追月」「涙そうそう」「空の架け橋」などの演奏し、一緒に30周年記念のお祝いに華を添えました。

・第4回山口一郎記念賞受賞式

受賞者：武上 真理子さん（京都大学准教授）

今年は最後となりましたが、孫文に関する優れた研究を表彰する第4回山口一郎記念賞の受賞式が行われ、友の会会員である京都大学の武上 真理子さんが受賞されました。武上さんは、今年総会後の特別講演会で「科学の人 孫文」を講演して頂き、友の会一同として誠に喜ばしいことです。受賞の記念に「科学の時代の孫文像」と題してスピーチされました。

・記念講演：「孫文と中国文化の伝承と発揚」
企画運営委員・元孫文記念館事務局長 大和 齊



孫 穗芳 博士

孫 穗芳さんのアピール～孫文記念館を世界遺産に～

孫 穗芳さんは孫文思想の研究者として活動する傍ら、孫文の功績を伝えるため世界各地に銅像を寄贈されています。これまで、孫文ゆかりの施設などに136体を寄贈されていますが、日本での設置は初めてです。同日午後、中華会館での記念式典で孫 穗芳さんは、「孫中山と中国文化の伝承と発揚」というタイトルで孫文を顕彰する記念講演がありました。

孫 穗芳さんは講演の中で、孫文の革命的な近代化思想の中心である三民主義を、詳しく説明されました。孫文の全般的な思想体系は、その三民主義とともに、五權憲法、建国大綱、建国方略などを含んでいます。

孫文は、1000年以上も続いた封建制度を倒して、この三民主義に基づく民主共和国を樹立しましたが、共和国建設だけに留まらず、建国するための筋道の中核を作り、その論点を五權憲法、建国大綱、建国方略に周到にプランニングされています。その特徴として、孫 穗芳さんは、それらの建国プランがすべて、近代科学の方法論に適ったものであり、そしてそれらには国のために、民のためという視点があり、中国の伝統的精神から決して離れていないと強調されました。

民族主義、民権主義、民生主義について、詳しく説明された後、特に民生主義を取り上げ、孫文の経済思想の根幹はここにあり、三民主義は国民のために設けたものと結論付けました。特に交通、農業、工業に関する叙述は、現在の中国経済の発展にも繋がるものと指摘されています。

孫 穗芳さんは、孫文の三民主義を建国の政治哲学の基礎とすれば、中国の持続的発展が保障されるとし、色々と餘余曲折はありますが、その具体的な実践を鄧小平、胡錦濤等の改革開放路線のなかに、三民主義に相通するものがあるとし、孫文の国家建設者としての役割が徐々に再認識されると結びました。同時に三民主義、天下為公、博愛精神をもって世界平和に貢献しましょうとアピール、世界の孫文顕彰施設を、世界遺産に申請しようと呼びかけられ、そこには舞子の孫文記念館も含まれています。



・30周年記念祝賀会 企画運営委員長 後藤 みなみ

18時より神仙閣にて初代理事長貝原前兵庫県知事、井戸知事もご臨席の中、日中関係者華僑など一同が集い、30周年式典記念祝賀会は盛大に行われた。

友の会からは林会長、河合副会長、山田顧問、記念館元事務局長の橋さん、大和さん、コーラス同好会張文乃先生・会員らが出席し、交流を深め、孫文記念館および移情閣友の会のこれからさらなる発展に力を合わせて取り組んでいきたいと心に誓いました。

而立(じりつ)の年— —30周年記念フォーラムを終えて

実行委員長(顧問) 山田 敬三

昨年末の12月20日、「移情閣（孫文記念館）友の会」は30周年記念行事のフォーラム《文化交流と留学—子どもたちの未来に向けて》を実施しました。会場となった舞子ビラには300名に及ぶ人々が集い、熱気のこもった講演や討論、歌敷山中学校吹奏楽部によるブラスバンドや二胡、コーラス（東舞子小学校PTAと友の会）、県立神戸商業高校生徒の中国語スピーチ、モンゴル楽団の舞踏と演奏も賑やかに行われました。

講師には初めての日本国費留学生として神戸に来られた徐 一平氏（北京日本学研究センター主任教授）とその夫人である滕軍さん（北京大学教授）を迎えて、留学のもつ意味

を自らの体験に即しつつお話し頂きました。お二人はいずれも「移情閣友の会中国語講座」の講師でした。



加藤 千洋さん 黒田 千晴さん

また、ゲストには黒田千晴さん（神戸大学留学生センター准教授）と元朝日新聞北京支局長の加藤千洋氏（同志社大学教授）をお願いしました。いずれも豊富な留学体験を持つ人たちで、文化交流に占める留学の意義、平和な世界を構築するための相互理解についてお述べになりました。

この行事には孫中山記念会や兵庫県国際交流協会、兵庫県、神戸市、中国駐大阪総領事館、宝塚市国際交流協会、神戸東洋医療学院孔子課堂、神戸新聞社、サンテレビジョンなど多数の団体からもご後援を頂き、また兵庫県中国人留学生支援の会が共催となりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ところで、30年は人間の30歳、「三十而立（三十にして立つ）」という論語の箴言によれば、ひとかどの見識を持って世間に認知される年です。その活動は記念館を母体としながらも、自立して歩める団体として組織的にも独立できる体制を、これからは意識的に追及する時期に来ていると思います。而立は自立、30歳は自立の年でもあることを、会員の皆さんに強く訴えたいと思います。



神戸地区留学生学友会

フォーラム終了後、会場を3階の「須磨の間」に移し講師などをお招きして懇親会を開催しました。63名の参加があり、終始和気あいあいの雰囲気の中で、友の会の30周年を祝いました。（後藤 みなみ）



開会挨拶
林 同福会長

背面：
歌敷山中学校
吹奏楽部



移情閣
二胡同好会



移情閣
コーラス同好会



貝原 俊民(元)孫中山記念会理事長のこと

友の会顧問 山田 敬三



12/24県民お別れの会

孫文記念館の創立30周年記念誌に「井戸を掘った人々」という拙文を寄せ、記念館創立にかかわった主要な人々の中で、現在も健在なのは貝原元知事だけである、

と記したばかりであった。交通事故による突然のご逝去は、孫文の令孫である孫穂芳女史を主賓に、中華会館で記念行事の行われた5日後のことでした。

孫女史の講演が終わった宴会の席で、「日本と中国の間に出来た影」という言葉を挨拶の中で使われたが、その微妙な言い回しの中に、屈折した思いがこめられているように私には思われた。その意味を確かめるため、事後の立ち話で、「日本に王道を求めた孫文の大アジア主義講演は、いま立場を代えているのではないでしょうか？」と問い合わせた時、はっきりと肯定されたことが鮮烈な印象として今も残っている。

私が驚愕に接したのは知事ではなく、孫文記念会の理事長であった。今日中関係に占める孫文の意味を、誰よりもよく理解しておられた賢人の逝去を中心からお悼みする。